

第3期中期目標期間(平31.4.1～令6.3.31) 業務実績報告書の概要

I 経営状況

- 1 第3期中期目標期間：収益的収支
- 2 第3期中期目標期間：収支構造
- 3 第3期中期目標期間：収入構造
- 4 第3期中期目標期間：資本的支出

II 中期計画における項目別実績

- 1 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
- 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置



I 経営状況

高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等の分野において第一級の病院であること及び地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、地方独立行政法人の特徴である機動性や効率性等を発揮した病院経営に取り組んでいる。

第3期中期目標期間（平31～令5）は、新型コロナウイルス感染症や物価高騰に伴う材料費の増加の影響などにより、経常収支比率は100%を下回る結果となったが、第3期中期計画期間累計の経常収支比率は100.6%となり、中期目標で定める「第3期中期目標期間を累計した損益計算において、経常収支比率を100%以上とすること」という目標は達成した。

1 第3期中期目標期間：収益的収支(税込)

(単位: 百万円)

科 目	平31・令元	令2	令3	令4	令5	5年間累計
経常収益 (A)	47,722	48,016	50,464	50,980	51,455	248,637
医業収益 (a)	39,778	38,077	40,746	40,895	42,776	202,272
運営費負担金収益	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	35,000
その他経常収益	944	2,939	2,718	3,085	1,679	11,365
うちコロナ関連補助金	0	1,815	1,838	2,005	494	6,152
経常費用 (B)	47,291	47,310	49,116	50,471	52,985	247,173
医業費用 (b)	46,301	46,315	48,120	49,518	52,002	242,256
一般管理費	357	365	383	360	354	1,819
財務費用	286	259	247	241	239	1,272
その他経常費用	347	371	366	352	390	1,826
経常損益 (A-B)	431	706	1,348	509	△1,530	1,464
経常損益(コロナ補助金除き)	431	△1,109	△490	△1,496	△2,024	△4,688
臨時損益 (C)	△130	△166	△174	△162	103	△529
当期純損益 (A-B+C)	301	540	1,174	347	△1,427	935

2 第3期中期目標期間：収支構造(税込)

(単位: 百万円)

区 分		総 合	こころ	こども	5年間累計	令5目標値
経常収支 比 率	経常収益(A)	171,466	13,911	63,260	248,638	—
	経常費用(B)	170,529	13,370	63,276	247,174	—
	(A)／(B)：％	100.5%	104.1%	100.0%	100.6%	期間中累計 100.0%以上
医業収支 比 率	医業収益(a)	150,277	7,913	44,083	202,273	—
	医業費用(b)	167,861	12,651	61,747	242,258	—
	(a)／(b)：％	89.5%	62.5%	71.4%	83.5%	—

・病院が安定した経営を行うための財政基盤の確保を示す指標である経常収支比率は、数値目標である100.0%を上回り100.6%となった。

3 第3期中期目標期間:収入構造(税込)

<業務量及び業務実績>

① 入院

(単位:人、%、円)

区 分		平31・令元	令2	令3	令4	令5	5年間 累計	令5 目標値
入院延患者数	総 合	225, 595	203, 298	207, 398	199, 210	211, 603	1, 047, 104	238, 000
	こころ	54, 037	53, 246	49, 296	50, 282	52, 898	259, 759	68, 400
	こども	75, 736	65, 681	66, 476	67, 877	68, 088	343, 858	79, 100
	計	355, 368	322, 225	323, 170	317, 369	332, 589	1, 650, 721	
病床稼働率	総 合	91. 1%	84. 8%	88. 2%	82. 6%	86. 0%	86. 6%	90%以上 ／毎年度
	こころ	85. 8%	84. 8%	78. 5%	80. 1%	84. 0%	82. 7%	85%以上 ／毎年度
	こども	76. 4%	66. 4%	76. 7%	75. 9%	75. 9%	74. 1%	75%以上 ／毎年度
	計	86. 6%	80. 2%	84. 0%	80. 7%	83. 1%	82. 9%	
1人1日当たり 入院単価	総 合	82, 992	86, 891	91, 329	92, 523	93, 391	89, 315	
	こころ	24, 804	24, 814	26, 562	26, 279	25, 607	25, 589	
	こども	97, 719	102, 820	99, 784	102, 596	100, 749	100, 655	
	計	77, 282	79, 880	83, 188	84, 182	84, 116	81, 649	

※ 総合病院の病床稼働率は一般病床のみで算定

- ・入院延患者数と病床稼働率は、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少した。
- ・1人1日当たり入院単価については、コロナ禍にあっても、充実した質の高い医療を提供した結果、増加傾向にある。

② 外 来

(単位:人、%、円)

区 分		平31・令元	令2	令3	令4	令5	5年間 累計	令5 目標値
外来延患者数	総 合	448, 945	425, 092	455, 056	455, 776	457, 778	2, 242, 647	431, 000
	こころ	39, 647	37, 285	36, 692	36, 761	36, 865	187, 250	41, 200
	こども	111, 874	103, 773	121, 675	117, 697	115, 904	570, 923	110, 900
	計	600, 466	566, 150	613, 423	610, 234	610, 547	3, 000, 820	
1人1日当たり 外来単価	総 合	21, 964	23, 331	24, 442	25, 151	26, 118	24, 222	—
	こころ	6, 508	6, 420	6, 429	6, 359	6, 402	6, 425	—
	こども	14, 131	15, 550	15, 644	15, 957	18, 187	15, 911	—
	計	19, 484	20, 791	21, 620	22, 246	23, 422	21, 530	—

- ・外来延患者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度に大きく減少したが、令和3年度以降はコロナ禍前の水準に回復した。
- ・1人1日当たり外来単価については、コロナ禍にあっても、充実した質の高い医療を提供した

結果、増加傾向にある。

4 第3期中期目標期間:資本的支出(税込)

(単位:百万円)

区 分		平 31・令元	令 2	令 3	令 4	令 5	5年間累計
資本的支出	建 設 改 良 費	2,424	4,342	3,739	2,657	7,639	20,801
	償 還 金	3,196	3,991	3,086	5,540	3,516	19,329
	長 期 貸 付 金	131	101	90	90	90	502
	計	5,751	8,434	6,915	8,287	11,245	40,632
財 源	長 期 借 入 金	2,371	3,789	3,065	2,336	5,344	16,905
	長期貸付金回収額	59	402	175	190	72	898
	自己資金(目的積立 金取崩し)等	3,321	4,243	3,675	5,760	5,830	22,829
	計	5,751	8,434	6,915	8,286	11,246	40,632

<施設等投資の状況>

①第3期 主要建設改良工事等の状況

3期累計予算執行額：11,608百万円

病 院	年度	整 備 等 内 容
総 合 病 院	平 31・令元	第Ⅰ期リニューアル工事（無菌病棟リニューアル、耐震補強等）、電気設備改修工事 他
	令 2	第Ⅰ・Ⅱ期リニューアル工事（化学療法センター、耐震補強等）、電気設備改修工事 他
	令 3	第Ⅱ期リニューアル工事（中央処置室及び感染症処置室整備、精神科病棟改修工事設計業務委託等）、ナースコール設備更新工事 他
	令 4	第Ⅱ期リニューアル工事（精神科病棟改修工事）、本館電気設備改修工事 他
	令 5	電気設備改修工事 他
こころの 医 療 センター	平 31・令元	院内トイレ改修工事、エレベーター設備改修工事 他
	令 2	受変電設備更新工事、サーバー棟新築工事、エレベーター設備改修工事 他
	令 3	厨房設備等改修工事設計業務委託
こ だ も 病 院	平 31・令元	本館リニューアル工事、特別応接室改修工事、空調機更新工事
	令 2	本館リニューアル工事、北館5階改修工事設計業務委託
	令 3	北館5階改修工事、医師宿舎等水道管改修工事 他
	令 4	昇降機改修工事、直流電源装置用蓄電池更新工事 他
	令 5	昇降機改修工事、外来天井改修工事 他
本 部	令 2	事務系システム用サーバー更新、財務会計システム更新、グループウェアシステム更新
	令 3	サーバー棟新築工事、サーバー棟UPS 及びラック設置工事 他
	令 4	ネットワーク機器更新工事 他
	令 5	電子カルテシステム更新（3病院医療情報システム統合）

②第3期 主要医療機器の整備状況（令和5年3月末までの主要機器10件）

3期累計予算執行額：9,193百万円

区分	年度	名 称	金額（千円）
本 部	令5	新医療情報システム用クライアント	1,111,000
総 合	令5	超電導磁石式全身用MR装置	295,900
こども	令2	リニアック（放射線治療装置）	256,850
総 合	令5	据置型デジタル式循環器用X線透視診断装置	247,390
総 合	令4	手術支援ロボット	238,975
こども	令4	C T装置	234,300
総 合	令4	P E T－C T装置	224,268
総 合	令2	I V R対応C T併用血管撮影装置	212,960
こども	令5	生体情報モニタ	196,900
総 合	令5	全身用X線C T装置	187,000

Ⅱ 中期計画における項目別実績

(1) 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する取組

＜特筆すべき取組及び成果等＞

① 医療の提供

第3期中期目標期間中、特に令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症により、各病院において拡大防止への対応や患者数の減少などの影響を受けている。

【総合病院】

ア 新型コロナウイルス感染症対策

第3期中期期間中、令和元年以降に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症への対応については、令和2年8月に県から重点医療機関に指定されるなど、**県と連携、協力して拡大防止に対応できる体制を整備**している。

施設面では、新型コロナウイルス感染症の治療に迅速に対応するため、令和2年4月から、本館6階の一般病棟20床を緊急的に使用した。その後、療養環境と治療環境の充実を図るため、本館3階に18床（令和2年9月運用開始）、本館6階に透析装置を有する27床（令和3年1月運用開始）の専門病棟を整備した。令和3年8月には緊急事態宣言の発令に伴い、更なる感染拡大に備え、計47床（本館6階29床、本館3階18床）を確保した。その後、令和4年7月～8月及び令和4年12月～2月にかけての新型コロナウイルス感染拡大により、確保していた病床数を大きく上回る患者を受け入れた。令和5年5月からは一般病棟にて受け入れを行った。

また、患者受入に関しては、院内感染対策等の研修の実施や感染対策室を中心とした**感染防止に関する取組を行い適切に行っている。**

なお、結核病棟については、結核病床を有する病院の多くが新型コロナウイルス感染症病床へ切り替える状況において、当院は50床を維持し、県内における結核患者の8割以上を受入可能な体制を整えている。(No.6, 15, 23, 24)

令和2年度以降、**新型コロナウイルス感染症専門病棟の設置に伴い、各部署から医師、看護師などが派遣され、多職種が対応に当たっている。**

また令和4年には、VRE（バンコマイシン耐性腸球菌）が分離される患者が多数確認されたが、専用病棟を設置するなどし、約6ヶ月という短期間で収束することができた。

(No.5)

イ 平成29年9月に運用開始した先端医学棟については、最新の設備と医療機器を最大限に活用した高度・先進医療を実施している。新型コロナウイルス感染症の影響により、手術件数は減少したが、3階、4階に設置したハイブリッド手術室、内視鏡手術室、ロボット支援手術室を含む23室の手術室と術後管理を行うHCU20床の一体的かつ効率的な運用に努めている。

手術件数・HCU入院延べ患者数 (単位：件・人)

区 分	平31・令元	令2	令3	令4	令和5	中期計画
手術件数	9,814	9,126	9,395	9,160	9,459	9,400/毎年度
HCU入院延べ患者数	6,426	5,569	5,759	5,669	6,537	

(No.36)

ウ 先端医学棟3階に設置したCT、MRI、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を活用し、主に心臓血管外科、循環器内科による経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)、ステントグラフト内挿術、経皮的僧帽弁接合不全修復術(MitraClip)等の低侵襲で高度な手術を実施しており、第3期中期目標期間中は高い使用実績を維持している。

ハイブリッド手術室稼働状況 (単位：件)

区 分	平31・令元	令2	令3	令4	令5	令5目標
ハイブリッド手術室使用件数	486	484	512	525	563	400
TAVI実施件数	67	65	105	81	84	—
ステントグラフト内挿術実施件数	125	76	99	120	108	—
MitraClip実施件数	24	14	21	11	14	—

(No.29)

エ がん疾患に対する高度・専門治療

がん患者に対して、手術、化学療法、放射線治療等を効果的に組み合わせた高度な集学的治療を実施しており、当院に対して症例が集約化されている。

手術については、**令和2年度から県内唯一の認定機関として、新たに心臓血管外科におけるロボット支援手術(ダ・ヴィンチ)（僧帽弁形成術）を開始**しており、ロボット支援手術機器(ダ・ヴィンチ)の運用に当たっては、手術講師を東京大学医学部、東京医科大学等から招聘し、術者の指導に充て、常に高度医療技術の習得に努めている。令和4年度からはロボット手術運営部会を立ち上げ、より良いロボット支援手術の運営に努めているほか、総合病院の婦人科医師がロボット手術学会の学会会長を務めるなど、婦人科のロボット支援手術の普及、発展、技術の向上に貢献している。

ロボット支援手術件数については、消化器外科及び心臓血管外科での手術件数が増加しており、令和2年度以降目標を大きく上回っている。

外来化学療法については、令和2年8月、外来化学療法センターの移転リニューアルにより療養環境を整備したほか、滞在時間の短縮を目指し、前日に採血を行う運用に変更し患者の利便性の向上を図った。また、令和4年度から、がん薬物療法（抗がん剤治療）による脱毛抑制のための頭部冷却装置（PAXMAN）を導入し、乳がん患者を対象に治療を開始した。薬物療法を受ける患者の治療中及び治療後の脱毛抑制が期待でき、患者サービスの向上が図られている。この結果、**第3期中期目標期間中の目標を大きく上回った。**

施設面では、令和元年8月よりリニアックを3台体制とし、高度変調放射線治療（IMRT）など高精度治療が標準選択できるようになり、それを目的とした紹介患者が増加したため、放射線治療実施件数は、目標値は令和4年度、令和5年度を除いて達成している。

また、がんゲノム医療にも積極的に取り組んでおり、平成31年4月に一般社団法人日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構による基幹施設に静岡県内で唯一認定されたほか、がんゲノム医療連携病院として、がんゲノム医療提供体制の構築を進めている。

外来化学療法加算

(単位：件)

区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標
件数	12,159	12,707	12,660	12,812	13,854	13,862	12,000以上

がん手術等件数

(単位：件)

区 分	平31・令元	令2	令3	令4	令5	令5目標
がん手術件数	3,576	3,446	3,646	3,581	3,524	—
手術支援ロボット 使用手術件数	199	243	261	328	407	230
放射線治療実施件数	1,100	1,104	1,257	980	978	1,000
外来化学療法加算	12,707	12,660	12,812	13,854	13,862	12,000

(No.30, 31, 34)

オ **緩和医療に関しては**、緩和医療科医師と精神科医師の着任により、令和元年9月に緩和ケアセンター(緩和ケアチーム)を新たに組織し、院内における緩和医療の提供体制を充実させるとともに、**地域の医療機関等との定期的なカンファレンスを通じて連携強化に取り組んでいる**。また、令和5年3月に地域がん診療連携拠点病院の指定更新を行っている。

令和2年度より、ハローワーク、産業保健総合支援センターとの連携により、**就労支援出張相談窓口を設置し、専門スタッフによる無料の就労相談を行っている**。

緩和ケア実施件数

(単位：件)

区 分	平31・令元	令2	令3	令4	令5
緩和ケアチーム介入症例数	527	482	548	396	383
緩和ケア診療加算算定件数	5,249	4,417	5,308	4,796	4,372

(No.32)

カ 令和元年9月にゲノム医療センターを新たに組織し、院内における遺伝子医療の提供

体制を充実させるため、臨床遺伝専門医や認定遺伝カウンセラー等の遺伝分野の専門スタッフを配置した。**がんゲノム医療拠点病院の選定では、東海北陸地域で5機関選定のところ、施設認定の選考において5番目となる高い評価を受けたものの、最終的には、地理的要因が考慮され、選定から外れている。**

また、がんゲノム関連検査、遺伝性腫瘍症候群、遺伝性疾患等の診療を行っており、遺伝診療科の受診者数は着実に増加している。(No.19)

キ 認知症や精神疾患と身体疾患を併せ持つ精神・身体合併症に対応可能な体制を整備するため、こころの医療センターとの連携による常勤の精神科医師5名の着任により、精神科患者の身体合併症に対応する精神科リエゾンチームと認知症ケアチームが協働しながら治療を行っている。また、精神疾患と身体疾患を併せ持つ精神・身体合併症に対する医療ニーズを踏まえ、令和5年度より精神科病棟（精神科身体合併症病棟）を開棟し、静岡県精神科救急身体合併症対応事業を受託し、地域医療に貢献している。

(No.5, 35)

ク 質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指すため、各病院では計画的に施設及び機器等を整備している。特に令和3年にこころの医療センターにサーバー棟を整備し、**令和5年度に3病院の医療情報システムの統合を行い医療情報の共有化に繋がった。**

(No.24)

ケ 高度救命救急センターでは、重症熱傷、重症外傷、急性中毒等の重篤な救急患者の受入を行っている。また、事故による重症外傷や胸痛等の循環器疾患が疑われる病態に対してドクターカーを出動し、救命救急センターのスタッフが災害や事故の現場に急行又は搬送途中の救急車とドッキングして治療を開始することにより、救命率の向上に繋がっている。

救急患者数・救急車受入件数等

(単位：人、件)

区 分	平 31・令元	令 2	令 3	令 4	令 5
救 急 患 者 数	12,882	10,569	10,997	11,245	11,813
救急車受入件数	5,553	5,073	5,524	6,144	6,443
ドクターカー出動件数	12	8	11	9	13

(No.38)

コ 総合病院における患者満足度は、入院・外来ともに高い水準で推移しており、目標とする 90%を達成している。また、紹介率、逆紹介率は、目標に達しない年があったものの平均的に高い水準で推移した。

患者満足度(総合病院)

(単位：%)

区 分	平 31・令元	令 2	令 3	令 4	令 5	中期計画
入 院	98.0	98.2	97.6	99.0	98.4	90%/毎年度
外 来	93.6	94.3	95.6	95.9	94.7	85%/毎年度

(No. 8)

紹介率・逆紹介率(総合病院)

(単位：%)

区 分	平 31・令元	令 2	令 3	令 4	令 5	中期計画
紹 介 率	92.4	93.8	93.5	91.3	89.7	90%/毎年度
逆 紹 介 率	174.7	195.4	200.3	188.2	173.0	175%/毎年度

(No. 9)

【こころの医療センター】

ア 新型コロナウイルス感染症に関しては、令和2年度以降、県の要請により病床を4床（うち2床をスタッフ用）整備しており、患者の受入れに対応した。

(No.5, 6, 15, 23)

イ 県内全域を対象とした「精神科救急ダイヤル」を24時間体制で運用し、患者、家族だけではなく、医療機関や関係施設等からの救急医療相談に対応した。

救急医療相談件数 (単位：件)

区 分	平31・令元	令2	令3	令4	令5
相 談 件 数	3,957	3,649	1,857	2,111	2,063
うち時間外件数	2,153	2,678	1,288	1,530	1,517

(No.41)

ウ m-ECT(修正型電気けいれん療法)及び先端薬物療法(クロザピン)など高度・専門医療を積極的に実施し、他の医療機関では対応困難な患者を積極的に受け入れた。

m-ECT(修正型電気けいれん療法)実施件数 (単位：件)

区 分	平31・令元	令2	令3	令4	令5	毎年度目標
m-ECT	870	737	827	655	715	700以上

クロザピン実施人数 (単位：人)

区 分	平31・令元	令2	令3	令4	令5	中期計画
クロザピン	60	65	70	83	91	62

(No.43, 44)

エ 在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア(ACT)チームによる退院支援と24時間365日の手厚いサポート体制による退院後の地域生活支援モデルを構築し、対象者への生活支援を継続して実施して実施した。

ACT実施状況 (単位：人)

区 分	平31・令元	令2	令3	令4	令5
外 来 患 者	5	4	4	4	3
入 院 患 者	2	1	1	1	3

(No.46)

オ 県内唯一の医療観察法指定入院医療機関として、県内の対象患者に加え、県外の対象患者について、国の要請に応じて積極的に受け入れる体制を取っており、患者一人一人の状態に合わせて作成した治療プログラムにより受入患者の着実な社会復帰を促進した。

また、医療従事者向け研修会を行い、医療観察法理解の拡大に努めた。

- ・ 医療観察法病棟：病床数 12 床、病床稼働率 100.1% (No.47)

カ 総合病院へ精神科医師を 3 名配置し、精神科リエゾン機能を強化するとともに、小児から児童思春期・成人への継続治療の連携強化に向け、医療体制のあり方を協議していく。 (No.48)

キ こころの医療センターにおける患者満足度(外来)は高い水準で推移しており、目標とする 85%を達成している。また、紹介率、逆紹介率については、新型コロナウイルス感染症の影響により地域移行支援が進んでいない状況もあり、第 3 期中期期間中目標値に達していない状況が続いている。

患者満足度(こころの医療センター)

(単位：%)

区 分	平 31・令元	令 2	令 3	令 4	令 5	中期計画
外 来	95.7%	92.7%	100.0%	92.3%	90.7%	85%/毎年度

(No. 8)

紹介率・逆紹介率(こころの医療センター)

(単位：%)

区 分	平 31・令元	令 2	令 3	令 4	令 5	中期計画
紹 介 率	56.1	51.2	45.6	53.6	54.8	57%/毎年度
逆 紹 介 率	33.7	30.1	25.2	26.9	27.0	30%/毎年度

(No. 10)

【こども病院】

ア 新型コロナウイルス感染症への対応については、令和2年8月に県から重点医療機関の指定を受け、最大で34床の受入れ体制（令和4年12月）を確保し、県内の他の重点医療機関でも対応困難なコロナ感染小児重症患者を受入れ、コロナにおいても小児領域の最後の砦としての役割を果たした。また、今回の日本における新型コロナウイルス感染パンデミックの経験を踏まえ、第8次静岡県保健医療計画中間見直しにおいて新興・再興感染症対策が追加されたことから、小児領域で役割を果たすべく、感染症指定医療機関の指定及び新興感染症に対する医療措置協定の締結に向け、県と調整している。

(No.5, 6, 15, 23)

イ 遠方から来院する患者の負担を軽減しながら安全で質の高い医療を提供するため、**令和2年9月にオンラインによる外来診療体制を全国に先駆けて構築**し、実施した。また、令和3年6月のPICUとCCUの統合により、集中治療系病棟の効率的な運用が可能となり、集中治療系のみならず病院全体の病床稼働率の上昇に寄与した。(No.60)

ウ 循環器科、心臓血管外科を中心とした連携により、多くの小児重症心疾患患者を受け入れた。令和3年度に高機能な血管撮影装置に更新したハイブリッド手術室においても治療及び検査を実施し、国内トップクラスである心臓カテーテル治療件数はコロナの影響下でも一定の水準を維持し、特に令和5年度は245件と実績を伸ばした。

心臓カテーテル治療件数

(単位：件)

区 分	平31・令元	令2	令3	令4	令5	中期計画
心臓カテーテル治療件数	206	192	204	187	245	230

(No.51)

エ 静岡県全域の周産期医療の中核を担い、妊娠管理から治療までのシステム構築を行い、ハイリスク胎児・妊婦、新生児や他の医療機関では受け入れ困難な超低出生体重児

等に対する高度な先進的治療の提供をした。

NICU 入院延患者数

(単位：人)

区 分	平 31・令元	令 2	令 3	令 4	令 5
N I C U入院延患者数	5, 250	5, 029	5, 094	5, 121	5, 293

(No.52)

オ **令和元年度に全国で 15 施設のみ的小児がん拠点病院に厚生労働省から指定**され、令和 3 年度に病室のクリーン度アップ、AYA ラウンジの増設、病棟の Wi-Fi 環境整備等を実施した。令和 4 年度にはこの整備した機能の活用及び県教育委員会との連携により、高校生の入院患者へのオンライン学習支援を本格的に開始し、この取組成果は県ひとり一改革運動において「県民サービスの向上」部門で大賞及び総合第 2 位を受賞した。

当院のハード・ソフト両面に渡る総合的な取組が評価され、令和 4 年 12 月の「**小児がん拠点病院の指定に関する検討会**」において**再指定**を受け、令和 5 年 4 月から東海北陸ブロックの拠点病院としての 2 期目の活動を開始した。**指定の継続により治験・臨床研究への参加が加速**し、小児がん領域の医師主導治験等に 4 件参加している。治験参加のメリットは非常に大きく、また、治験を受けることは小児がん拠点病院としての使命であることから、他の指定施設と同等以上の体制となるよう更なる整備を進め、次期の指定継続を確実なものにしていく。

(No.53)

カ 小児集中治療センター(P I C U)と小児救急センター(E R)を中心に、24 時間 365 日体制で、他院で対応困難と紹介された小児重症患者、小児救急患者を断ること無く受け入れた。

小児救急センター患者数

(単位：人)

区 分	平 31・令元	令 2	令 3	令 4	令 5
小児救急センター患者数	5, 916	3, 619	4, 612	4, 328	4, 930

(No.54)

キ 移行期医療支援体制の整備のため、移行期医療に関する院内部署を組織化し、また、

令和2年度から移行期医療支援センター運営事業を県から受託し、令和4年度に移行期医療推進協議会を立ち上げ、医療機関連携マップの作成を目指し調査を実施している。

在宅移行の推進や在宅移行後の医療的ケア児への対応については、令和2年度に指定を受けた短期入所事業者としてのレスパイト対応や、リハビリの実施等により支援し、特にリハビリ実施件数は第3期中期目標期間を通じて大きく数値を伸ばした。

リハ実施件数（理学療法実施件数）

（単位：件）

区 分	平31・令元	令2	令3	令4	令5	令5目標
リハ実施件数	22,829	22,985	24,683	25,770	26,886	15,000

(No.18, 23)

ク 発達小児科では、増加傾向にある発達障害に対応し、現行体制で可能な限りの取組を行った。こころの診療科では、子どもの心の診療ネットワーク事業の拠点病院として、医療機関、学校等との連携強化等を推進し、その役割を果たした。

(No.22, 56, 57, 58, 92)

ケ こども病院における患者満足度は、入院・外来ともに高い水準で推移しており、第3期中期計画目標値の90%を毎年度達成した。また、紹介率及び逆紹介率は、令和4年度の逆紹介率を除いて目標値に達していないが、地域医療支援病院の承認要件は満たした。

患者満足度（こども病院）

（単位：％）

区 分	平31・令元	令2	令3	令4	令5	中期計画
入 院	99.0	95.3	100.0	95.9	93.5	90%/毎年度
外 来	98.1	96.5	97.3	100.0	97.1	90%/毎年度

紹介率・逆紹介率（こども病院）

（単位：％）

区 分	平31・令元	令2	令3	令4	令5	中期計画
紹 介 率	90.9	90.7	91.1	91.1	90.1	94%/毎年度
逆 紹 介 率	47.7	44.8	46.2	61.4	47.8	53%/毎年度

(No. 8, 11)

コ 第3期中期目標期間中、県から各種事業を受託し、その推進を図った。令和4年度からは児童虐待早期発見医療体制整備事業を受託し、地域医療機関の相談対応や教育研修等を実施した。また、令和5年度には小児救急リモート指導医相談支援事業を受託し、地域病院群オンライン連携による小児夜間救急の新モデル構築を図った。

(No.60, 92)

② 医療従事者の確保及び質の向上

ア 第3期中期目標期間中、医師については、プログラム紹介など病院の魅力の発信や、医学生向け説明会への積極的な参加などにより確保に努めた。一方、看護師については、新型コロナウイルス感染症が拡大して以降は、その影響を考慮し、慎重に検討しつつ採用を行った。(3病院)

(No.61, 62, 63)

イ 看護師について、定期募集、経験者募集(月次募集)により、切れ目のない採用試験を行うとともに、令和2年度には、新型コロナウイルス感染症が拡大するなか、採用試験において、Web面談と小論文に代わる書類審査に切替え実施するなど、適宜適切な採用試験の実施に努めた。(3病院)

(No.63)

ウ 平成24年度創設した看護師修学資金貸与制度は、令和6年3月末時点で、継続者を含め213人に貸与を行うなど、安定的な看護師確保に活用されている。

(No.105)

エ 総合病院では、先端医学棟2階メディカルスキルアップセンターでは、模擬病室の設置や各種の高度なシミュレーターを導入し、初期研修医の手技トレーニングを中心に多くの医療従事者に利用されている。また、外部利用については、医師会主催の研修会等で活用されており、今後も利用拡大に努める。

こども病院では、令和元年度までは従来のラーニングセンターにて研修を実施していたが、令和2年度以降の病棟工事や新型コロナ対策物品の保管場所となるなど使用できない期間が続いた。ラーニングセンター再開に向け、令和4年度にL棟3階の大会議室含むエリアにラーニングセンター機能を付加することを決定した。

このことを受け、令和5年度に大会議室の改修及び近隣の会議室にポータブル医ガス

装置を整備することで実技研修を常時実施可能な環境を整備して各種研修に必要な機能を集約した。令和6年度から当該ラーニングセンターを運用し、医療従事者による研修を更に充実させる。(No.66, 67)

オ 総合病院では、中国浙江省の7医院と友好協力協定及び覚書を締結し、これまでに研修生延べ86人(うち医師62人)を受け入れるなど、積極的な交流を行ってきた。令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響により派遣研修及び相互訪問は中止となっていたが、オンラインによる学会参加や医療支援物資の受領、書簡の往来など、継続的に交流を行い、令和5年6月には浙江省衛生健康委員会を受け入れた。また、静岡社会健康医学大学院大学の開学に際し、浙江省衛生健康委員会をはじめとする浙江省内の7医院から祝辞を受ける等、緊密な連絡体制を維持している。(総合)

こども病院では、友好協力協定を締結しているマレーシア国立循環器病センター、浙江大学医学院附属儿童医院、深セン市儿童医院との間で診療支援、医師・看護師の研修派遣・受入れ等、積極的な交流を行ってきた。令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響で、医師・看護師の研修派遣・受入れは中止しているが、診療支援は可能な限り継続した。(こども) (No.65, 68)

カ 第3期中期目標期間中は、看護師の2交代制や夜勤専従の取組など、雇用形態の多様化を図っている。また、看護師等のアソシエイト職員を採用し、優秀な人材確保を進めているほか、平成29年4月以降は、診療賞与の導入により、医師の診療実績を的確に反映する給与体系となっている。(3病院) (No.72)

キ 医師の事務補助を行う職員や看護助手等の補助職員の増員や適切な配置により、医療従事者が診療に専念できる体制を整えている。(3病院) (No.73)

ク 職員の士気向上を図ること等を目指した人事評価制度について、令和2年度から給与(勤勉手当)への活用を開始しており、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に実施している。(3病院)

※ 令和3年度評価を令和5年1月昇給に活用。(No.74)

ケ 総合病院では、**医師の働き方改革をふまえ、医師の労働時間短縮計画等に基づき、勤務間インターバルの確保、代償休息の取得の推進、医師から看護・メディカルスタッフ・事務への業務のタスクシフトの推進等の取組みを行った。**

院内保育所では、二重保育や夜間保育、土日預かり等の多様なメニューを揃え、子育てしながら働きやすい環境を提供している。また、幼保無償化の影響による入所者の確保対策としてコメディカルや事務職員の入所を開始した。(総合)

こども病院では、平成31年4月から運用を開始した新院内保育所において、二重保育等新たな保育サービスを行っている。また、令和2年3月にコンビニエンスストアを導入した。(こども)

医師、看護師等の新型コロナウイルス感染症及び医療事故への対応、その他こころの悩みに対し精神科医師によるケアを充実させ、安心して働くことのできる職場環境改善に努めている。また、看護師等が離職することを防止するため、こころのケアだけでなく体力低下で看護業務へ支障を来さないよう日常の生活相談を含め、心身に対するきめ細かい対応を行い、長期に渡り勤務できる環境を整える取組を行っている。

更に**国に先駆けて「就学前児童の養育資金貸付制度」を創設**し、職員の働きやすい環境を整備しており、同制度は先進事例として全国の自治体から注目を集めている。

(3病院)

(No.75, 76)

③ 調査及び研究

ア 県民の健康寿命延伸のため、先端医学棟5階リサーチサポートセンターを拠点に、医療ビッグデータの活用に関する研究、効果的な健康増進施策・疾病予防対策のための疫学研究、ゲノムコホート研究を3本の柱とする社会健康医学研究を実施している。

平成30年度より、県と協力しながら取り組んだ研究体制の強化や研究環境の整備の結果、令和3年4月に静岡社会健康医学大学院大学が開学した。開学に向けては、大学院大学研究員の確保として採用予定の研究関係者23名を開学まで雇用したほか、機

器整備等にも取り組んだ。また、規程の整備や**職員の大学院大学への入学推薦者の選定など、医療従事者が働きながら修学できる環境を整えた。**

社会健康医学研究については、大学院大学開学後も、引き続き当院のリサーチサポートセンターを利用しながら研究を実施している。

また、**令和2年1月に締結した慶應義塾大学大学院医学研究科と連携協力に関する協定に基づき、機構医師の大学院博士課程への入学等、人的交流を進めている。**

文部科学省科学研究費についても、令和元年度から総合病院の全ての診療科が申請対象となっており、応募・採択状況が着実に増加している。

科学研究費応募・採択件数(総合病院) (単位：件)

区 分	平 31・令元	令 2	令 3	令 4	令 5
応募件数	－	8	12	2	3
採択件数	－	2 (1,950 千円)	2 (8,320 千円)	1 (3,250 千円)	0

(総合)

(No.77)

イ 最先端の医療設備・体制を整備したきこえとことばのセンター（静岡県乳幼児聴覚支援センター）では、新生児聴覚スクリーニング検査や難聴児支援に関して先進的な取り組みを行うことで、難聴児の早期発見、早期介入を行うとともに、乳幼児期の難聴や人工内耳の装用による脳の発達のメカニズムに関する研究を実施している。

同センターのこれまでの取り組みが高く評価された結果、令和3年10月には国内有数の研究機関であるNTTコミュニケーション科学基礎研究所との間に、**難聴者における聴覚機構の態様を明らかにし、音声知覚・言語発達の個人差の背後にあるメカニズムを解明することを目的とした共同研究に関する協定を締結**するなど、更なる研究の進展が期待されている。また、令和5年度より難聴児の音声言語獲得に高い実績を持つ、**オーストラリアのシェパードセンターの療育プログラムによるパイロットセンター立ち上げの準備**を静岡県と共に現地スタッフとのオンラインミーティングを重ねながら進めている。また、地域の医療機関等に対して定期的に難聴児の早期発見、早期介入を目的とした研修会を開催し、最新医療に関する情報提供を行っている。(総合) (No.77, 96)

ウ 総合病院では、DPCデータに基づく症例分析を行い、医局会においてDPC入院期間Ⅱ以内での退院状況や副傷病名の付与率等を報告するとともに、DPCコーディング部会における議論等により、平均在院日数の短縮やDPCコーディングの適正化に努めている。(総合)

また、こども病院では、早期のデータ入力を継続して促し適切なコーディングを行うことで診療報酬を漏れなく請求するよう努めた。(No.79, 80)

④ 地域への支援

ア 地域の医療機関等との連携・支援

県立病院としての役割を果たすため、医師確保に努めるとともに、医師不足が顕著な公的病院等に医師を派遣している。

令和3年4月に地域医療連携推進法人として県内初の認定を受けた「**地域医療連携推進法人 ふじのくに社会健康医療連合**」には**県立病院機構の3病院に加え、JCHO 桜ヶ丘病院と静岡社会健康医学大学院大学の2施設が参画**している。国の厚生労働省が所管するJCHOの病院と県立病院を参画施設とする地域医療連携推進法人は、全国初であり、静岡市清水区の医療を支える桜ヶ丘病院を支援するため、総合病院から桜ヶ丘病院に対して医師を派遣している(法人の認定以降は人数を増やして対応している)。

また、**静岡社会健康医学大学院大学は、医師の配置調整業務を行うなど、特長のある地域医療連携推進法人**となっている。

【総合病院】

医師確保については、県立病院としての役割を果たすため、桜ヶ丘病院以外にも医師不足が顕著な公的病院等、9医療機関に対し医師を派遣している。

・医療機関数：10

(桜ヶ丘病院、島田市立総合医療センター、富士宮市立病院、伊豆赤十字病院、

佐久間病院、川根本町いやしの里診療所、静岡赤十字病院、静岡市立病院、沼津市立

病院、つばさ静岡)

・診療科数：10、 派遣延べ人数：726 人 (No.81)

派遣実績 (単位：件、人)

区 分	平 31・令元	令 2	令 3	令 4	令 5
診 療 科 数	11	11	11	9	10
派遣延べ人数	752	687	501	583	726

イ 複数医療機関における相互の診療情報共有や地域連携の強化のため、各地域の自治体・医師会とともにふじのくにねっと協議会を運営し、広域ネットワーク基盤を構築のうえ運用している。令和3年度も、地域医療連携推進事業費補助金を活用し、新規システムの構築及び機器更新を進めている。 (No.9, 13, 86)

ネットワーク実績 (単位：件)

区 分	平 31・令元	令 2	令 3	令 4	令 5
開 示 施 設 数	16	19	19	20	20
開示件数(新規)	4,668	4,966	5,776	7,888	8,226

ウ 専攻医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力が伝わるような募集を行っている。また、オンライン会議システムを活用した面談を行うなど、専攻医確保に努めている。 (No.84)

エ 県民及び医療従事者に対して、当院における先進的な医療に関する情報提供やPRを行うため、公開講座を開催している。令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響により、公開講座の実施件数は減少していたが、令和5年度については令和元年度を上回る件数となった。 (No.96)

公開講座開催件数 (単位：件)

区 分	平 31・令元	令 2	令 3	令 4	令 5	中期計画
総 合 病 院	36	13	14	28	54	37 件/毎年度

【こころの医療センター】

ア 精神科専門医研修の基幹施設としてプログラムを提供しており、専攻医を確保し、県内の専門医育成に寄与している。(No.84)

イ 県内精神科医療の中核病院として医療観察法の鑑定医の要請に協力する等、各方面からの要請に積極的に対応している。(No.91)

ウ 県民及び医療従事者に対して、当院における先進的な医療に関する情報提供やPRを行うための公開講座については、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症防止を重視したこともあり、一般向け公開講座の開催を中止したが、令和4年度からは再開している。(No.96)

公開講座開催件数

(単位：件)

区 分	平 31・令元	令 2	令 3	令 4	令 5	中期計画
こころの医療センター	10	3	0	2	2	7件/毎年度

【こども病院】

ア 県立病院としての役割を果たすため、医師不足が顕著な公的病院等に医師を派遣している。

派遣実績

(単位：件、人)

区 分	平 31・令元	令 2	令 3	令 4	令 5
10 医療機関等 4 診療科	496	474	516	527	621

- ・ 10 医療機関等は、静岡市立静岡病院、焼津市立総合病院、藤枝市立総合病院、島田市立総合医療センター、中東遠総合医療センター、静岡赤十字病院、県中西部発達障害者支援センター、静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターの他、重症心身障害児施設つばさ静岡 (No.81, 82)

イ 小児科専攻医研修の基幹研修施設として、県中東部の連携施設 10 病院と作成した日本小児科学会の承認を受けたプログラムをもとに研修を行った。今後も継続してプログラムの周知等を行い、専攻医の確保に努める。(No.84)

ウ 県民及び医療従事者に対して、当院における先進的な医療に関する情報提供やPRを行うため、公開講座を開催した。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡

大防止を優先し公開講座の件数は減少したが、3年度以降は中期計画目標値には達していないものの、オンラインの活用等もあり開催件数は増加した。(No.96)

公開講座開催件数

(単位：件)

区 分	平31・令元	令2	令3	令4	令5	中期計画
こども病院	12	11	18	15	22	25件/毎年度

⑤ 災害等における医療救護

ア 総合病院

令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、政府や県が主催する訓練が中止となっていたが、令和4年度より静岡DMAT-L 隊員養成研修及び静岡DMAT ロジスティック研修を3年ぶりに実施し、各種訓練も再開している。**DMAT チーム内では定期的に情報伝達、情報共有の準備を行うなど、引き続き災害時における医療救護体制の整備に取り組んでおり、令和3年7月の熱海市土砂災害にDMAT を派遣したほか、令和6年1月の能登半島地震においては3チーム（1チームは他の病院との混合）派遣し、ロジスティックチームの派遣として1名を、県対策本部に延べ38名を派遣した。**(No.100, 103)

イ こころの医療センター

災害発生直後に精神科医療における支援が可能なDPAT（災害派遣精神科医療チーム）を保有し、被災地へのDPATの派遣や県の要請に基づく支援等を実施する体制を整備しており、**令和3年2月には、診療機能、一時的避難所及びDPAT派遣機能を有した災害拠点精神科病院として、県内初となる指定を受けた。**

令和元年9月の台風15号（千葉県）、令和3年7月の熱海市土砂災害、令和6年1月の能登半島地震では、県の要請に基づきDPAT隊を派遣し、被災地における精神科医療体制の整備に取り組むとともに、被災者のこころのケア等に従事した。(No.101)

ウ こども病院

令和3年3月に南海トラフ地震を想定したBCPを策定し、同年11月に実施した総

合防災訓練本部運営訓練にて初めてBCPの検証を行った。また、令和5年3月にBCP研修を実施し、BCPの院内周知に努めている。

令和3年度以降の総合防災訓練では、小児災害医療の最後の砦として、災害拠点病院並みの役割を果たすことを想定して訓練を実施しており、特に4年度は政府訓練と連動して訓練を実施するなど院外機関と連携した訓練内容とした。

また、日本小児総合医療施設協議会における広域災害時相互支援に関する協定書を2年ごと（令和元年、3年、5年）見直し、最新の施設情報等を反映することで実効性の高い協定内容としており、相互支援システムを積極的に使用していく。（No.102）

(2) 業務運営の改善及び効率化に関する取組

<特筆すべき取組及び成果等>

① 効率的な業務運営体制の強化

ア 第3期中期目標期間中は、毎年度理事会や運営会議等の開催を通じて、機構幹部が常に経営状況を把握するとともに、状況の変化に応じた的確な予算措置や組織改正を行うなど、独立行政法人制度の特徴を活かした病院運営を実施している。

将来にわたり医師確保を図るため、**令和3年4月に職務に応じた適切な給与制度を構築（級別標準職務表の見直し）した**。「職務の級」が役職による職責に応じて適用されることで、能力や意欲の高い職員が上位の職位に登用されることとなり、職員の能力や意欲の向上につなげている。

総合病院では、令和4年4月から「管理一体型 ESCO 事業」を導入し、本館及び北館の老朽化した熱源機器等をエネルギー効率の高い省エネ機器に更新したほか、各階中央廊下等 24 時間点灯箇所を中心に、LED 照明器具に交換するなどの省エネ改修を行った。 (No.104)

イ 看護師確保のため、第3期中期目標期間を通じて就職説明会への参加や各種広報、修学資金貸与制度の拡充、養成校訪問など様々な確保対策を進め、採用数の増加に繋がった。 (No.105)

ウ 「業務改善運動推進制度」については、職員が常時業務の改善提案できる体制を整備し、各病院で広く業務の改善に取り組んでいる。第3期中期目標期間中の令和2年度は、新型コロナウイルス感染症への対応策に特化した改善策を募集した。優れた取り組みについては、ホームページなどで広く周知を図っている。 (No.108)

業務改善運動推進制度実績件数

(単位：件)

	令31・令元	令2	令3	令4	令5	中期計画
総 合	113	27	164	95	98	80 件以上/毎年度
こころ	32	4	53	36	37	36 件以上/毎年度
こども	50	29	38	75	72	71 件以上/毎年度
本 部	8	8	21	20	20	19 件以上/毎年度
計	203	68	276	226	227	206 件以上/毎年度

※ 令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策に係る取組みに限定して実施

② 事務部門の専門性の向上

ア 第3期中期目標期間を通じて、階層別に、業務上必要なスキルを身につける専門研修を実施するとともに、診療情報管理機能の強化のため、診療情報管理士資格の取得支援制度を活用し、必要な資格者の育成を行っている。(No.109, 110)

イ 第3期中期目標期間を通じて、適正な収入確保に向けて、全職員対象とした診療報酬やDPC制度等に関する研修会を開催している。(No.109)

③ 収益の確保と費用の節減

ア 診療材料費については、価格交渉や共同購入を積極的に行い、第3期中期目標期間を通じて成果を上げている。薬品費は、第3期中期目標期間を通じて競合する薬剤を引き合いに出した交渉を実施し、大幅な値引きを実現している。(No.115)

イ 医療機器の購入及び保守については、他施設の実績やベンチマークの活用による価格調査やそれに基づいた価格交渉を行い、大きな値引きを実現している。(No.116)

(3) 予算、収支計画及び資金計画

<特筆すべき取組及び成果等>

令和2～4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、医療面では充実した質の高い医療を提供し、経営面では機能的で効率的な病院経営を推進した。令和5年度は、物価高騰に伴う材料費の増加の影響などにより、経常収支比率は100%を下回る結果となったが、機構全体では中期目標で定める「第3期中期目標期間を累計した損益計算において、経常収支比率を100%以上とすること」という目標は達成した。

3病院のうち、総合病院、こころの医療センターは、中期目標期間の累計で経常収支比率100%以上を達成したものの、こども病院では、中期目標期間において1,512万円の経常損失となり、経常収支比率100%以上を達成できなかった。

今後、こども病院においては、地域における小児医療の要請や少子化の進行など状況の変化に対応する小児医療提供体制構築を目指し、経営改善に取り組むこととする。

(No.119)